

第5次長期総合計画策定に係る市民意識調査結果の概要

望まれる「まちの活気」「安全・安心」

第5次長期総合計画策定のため本年1月に実施した市民意識調査の結果の概要を報告します。

まず、「住みよさ」(下図)については、「住みよい」と「まあ住みよい」を合わせると10年前の前回調査同様7割を占めました。しかし、「住みよい」は10.1ポイントの減少、「住みにくい」は2.8%から5.5%になるなど、全体的に住みにくくなっていると感じている傾向が表れています。個別的看着ていくと、「まちの活気」や「仕事」面でマイナス評価が多いことから「住みやすさ」の評価に長引く景気低迷の影響が出ているものと考えられます。また、「歴史と伝統」や「自然」などはプラスの評価が多い反面、「交通の便利さ」や「医療や福祉での安心感」などが引き続き行政課題となっています。

個別項目(次ページ)においても全体として、健康、文化、教育などのソフト面については一定の評価が得られたものの、社会基盤の整備要望が強く、また、「まち」の活性化対策が強く求められています。

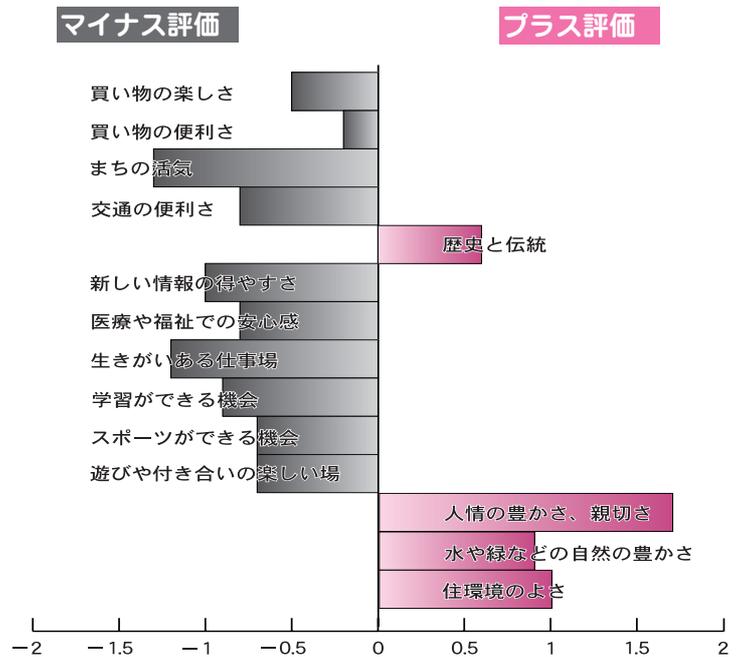
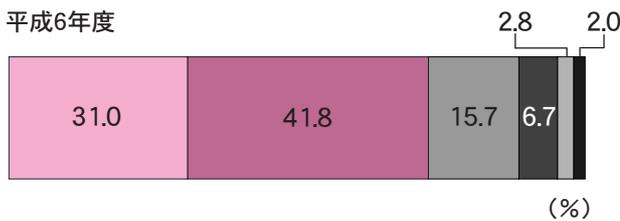
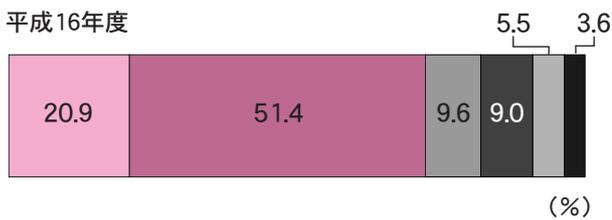
市では、この調査結果を、「市民まちづくり会議」や「市民1000人インターネットまちづくり会議」の論議の場に提供し、8月開催予定の審議会への諮問案に反映させていきます。

なお、この調査の詳細な結果は報告書に取りまとめ、市ホームページ上で公開します。また、入手希望の方は市役所政策形成課政策担当へお問い合わせください。

問合せ先 政策形成課 政策担当

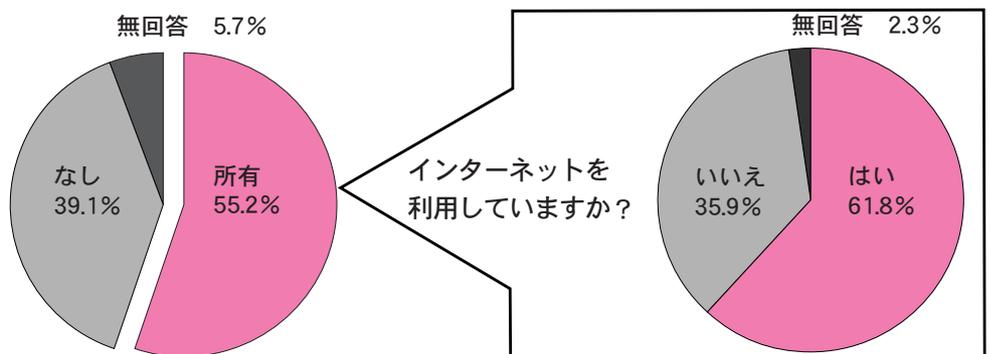
(参考)	
調査地域	都留市全域
調査対象	満16歳以上(含外国人登録者)
抽出方法	無作為抽出 2000サンプル
調査方法	郵送配布、郵送及び訪問回収
調査期間	平成17年1月7日から25日
実発送数	1,984
実回収数	1,327
回収率	66.9%

Q 住みよさについて



Q パソコン所有率

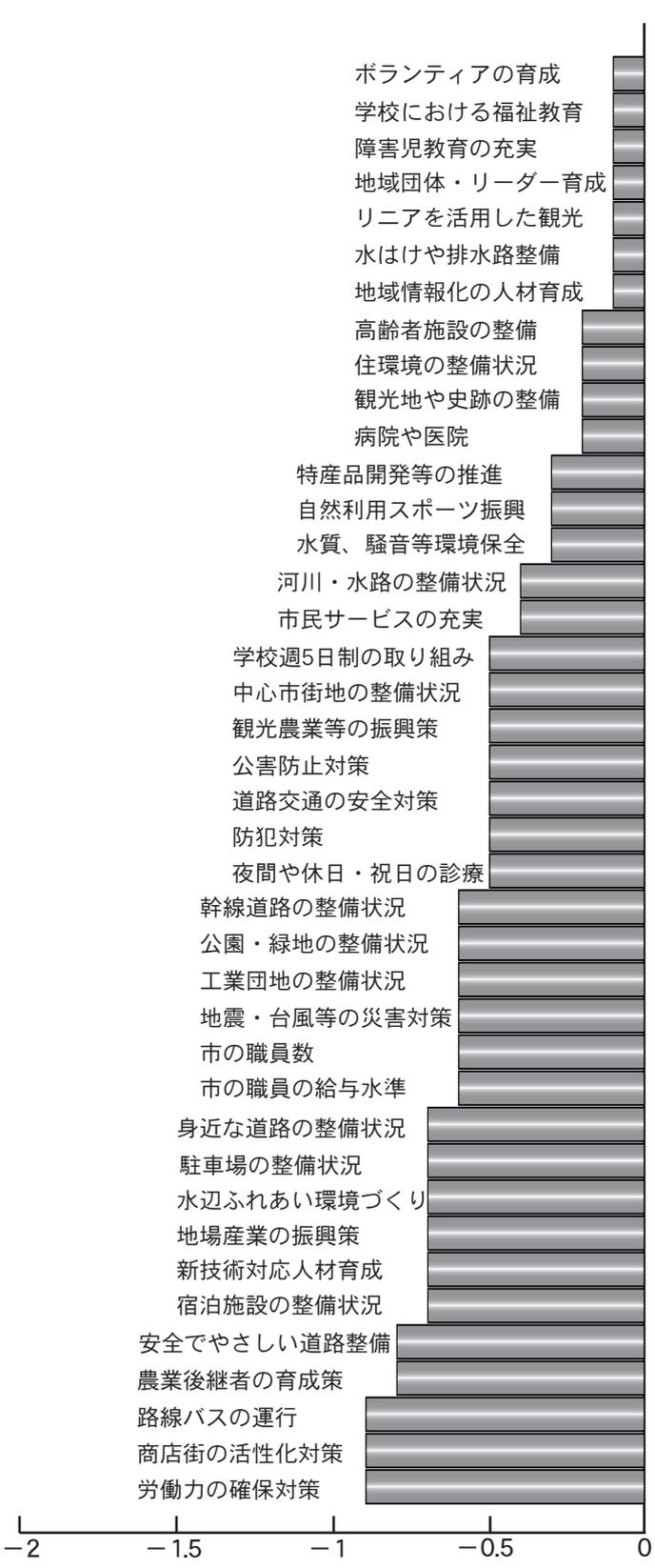
パソコンを持っている人の割合は55.2%、その内、インターネットを利用している人の割合は61.8%で、全体の34.1%の人はインターネット利用者であることがうかがえます。



全項目

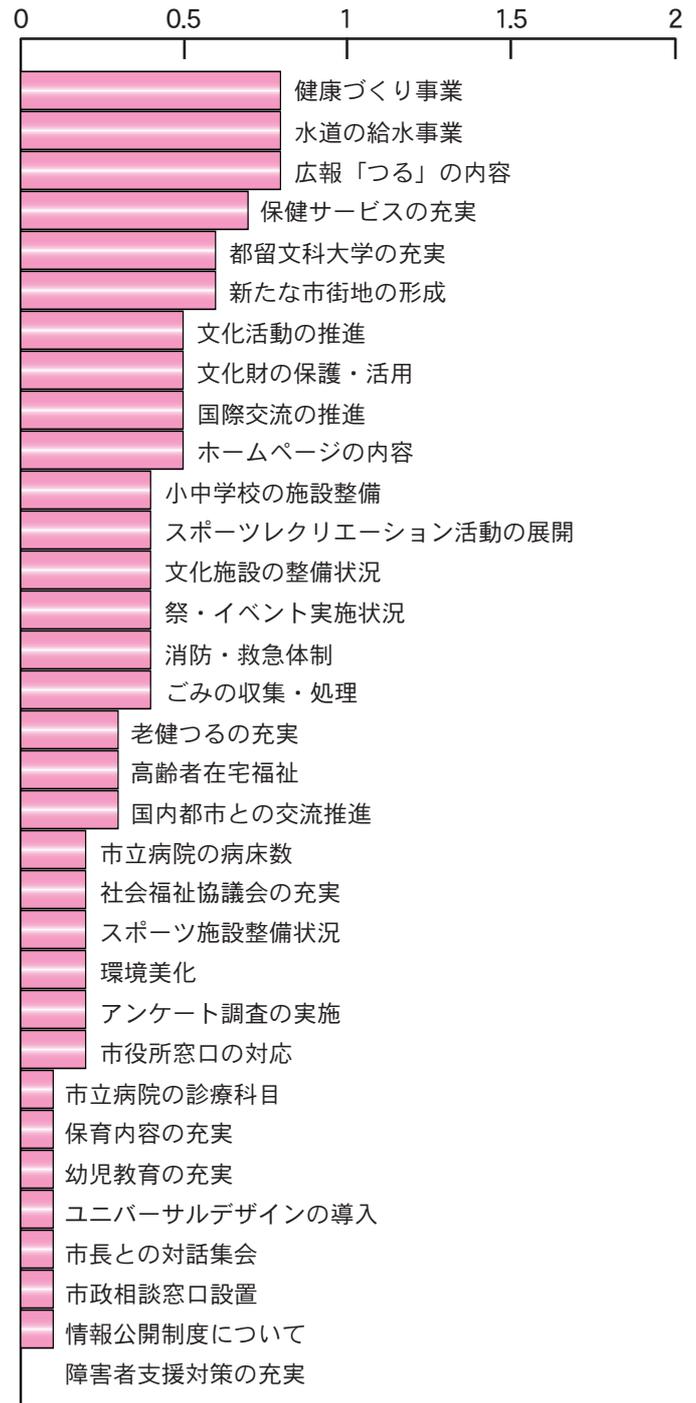
加重平均値比較一覧表

マイナス評価



加重平均値って何？

「満足」と回答した人数に「+2」、「まあ満足」に「+1」、「どちらでもない」に「0」、「やや不満」に「-1」、「不満」に「-2」をそれぞれ乗じて合計したものを、上記回答者の総数で除した数値のことです。「0」を基準に数値が大きいほど満足度（不満度）が高いことが示されます。最大値は「2」で、これは全回答が「満足」であったことを示し、最小値は「-2」で、これは全回答が「不満」であったことを示します。



プラス評価